

Ⅶ 早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験

(実施期間：平成 29 年度～33 年度 予算区分：単県課題 担当：池本省吾)

1 目的

近年、里山の放置による竹林拡大や耕作放棄地の増加など、中山間地域における土地利用の低下が進行している中、植栽から 15～30 年程度で収穫できる「早生樹」は、里山・耕作放棄地の有効利用に繋がる可能性がある。そこで、早生樹を利用した回転が速い短伐期林業の技術開発及び育林技術の体系化を図る。

2 実施概要

(1) 方法

センダンを植林する際の基礎資料とするため、県内 5 カ所に植栽試験地を設けた (図 1)。植栽後の苗高を定期的に計測するとともに、雪害、病虫害等の発生状況を調査した。

(2) 結果

試験地 NO.1 (11 月植栽：標高 480m) では、積雪による幹折れが多数発生 (被害率 92.1%) し、根元径が 4mm 以下、比較苗高が 100 以上の苗木のほとんどが根元から折れていた (図 2)。幹の折損部からは萌芽の発生がみられたが、その後の成長は不良であった。苗木の活着率は 74%～99% で、試験地 NO.5 の施肥区では施肥量過多と思われる枯損及び獣害が発生した (図 3)。植栽苗木の成長量の平均は、畑地 105.6 cm～マツ枯れ跡 11.4 cm で、場所によって大きくばらついた (図 4)。

3 結果の図表と研究の様子

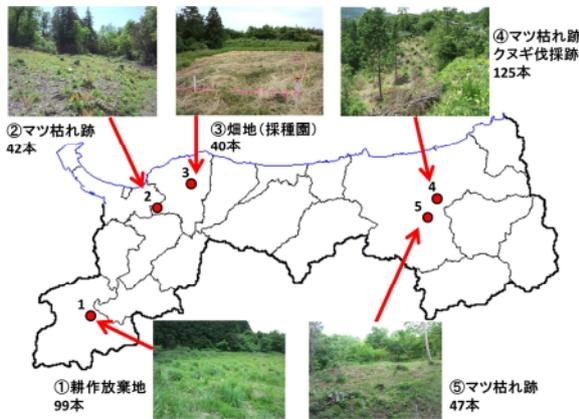


図 1 植栽試験地の概要

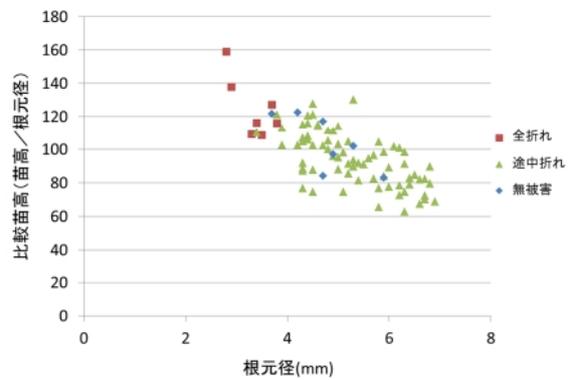


図 2 苗木の形状と雪害 (幹折れ) の関係

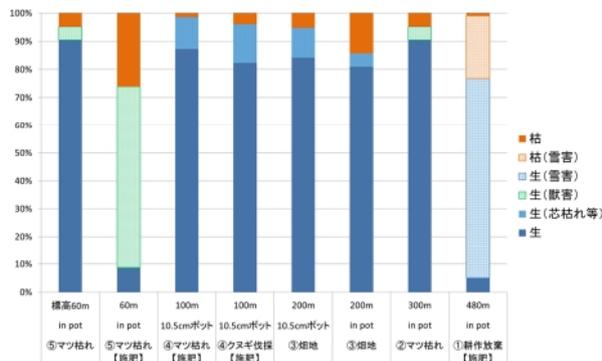


図 3 植栽地毎の活着状況

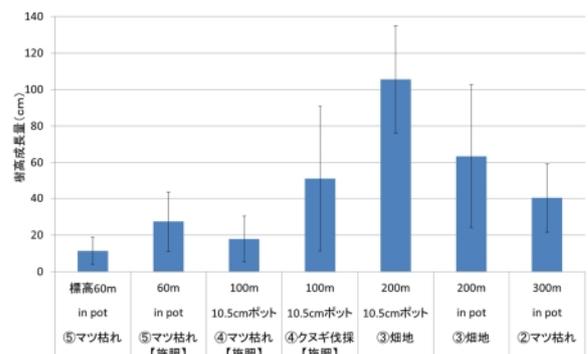


図 4 植栽地毎の伸長成長量